

2018年2月13日

ジャカルタジャパンクラブ
会員各位

ジャカルタジャパンクラブ
海外邦人安全対策連絡協議会

1 最近の政治・治安情勢

2月11日にジョグジャカルタにて牧師襲撃事件が発生したほか、1月27日及び2月1日、バンドンにてイスラム系の宗教指導者襲撃事件、2月7日にタンゲランでは仏教僧が負傷する事件がそれぞれ発生する等、最近では宗教的指導者を狙った事件が多発している。

また、2016年8月にメダン、同年11月に東カリマンタンで教会を襲撃する事件も発生している。

最近の事件については、いずれの事件も動機や犯人の背景など不明な点が多いものの、基本的には、宗教施設へ立ち入りする際には十分注意していただきたい。

2 邦人に関わる最近の事件・事故報告

(1) 窃盗・強盗

ア 1月27日にチカラン県でパンク強盗が発生した。会社を出て帰宅中にタイヤがパンクしたため、携帯電話や財布などが入ったバッグを車中に置いたまま、運転手とともに外に出てパンク修理をしていたところ、そのバッグを盗まれた。

イ 1月22日にモナスからトランス・ジャカルタに乘車していたところ、車内で5人組のインドネシア人に囲まれ、次の停留所で降りるようナイフで脅された。犯人の要求に応じ停留所で降りた後、同様に金を出すよう脅されたため、財布などを渡した。その際、停留所で周りに助けを求めたが、助ける者はいなかった。犯行後、すぐにクレジットカード会社へ連絡しカードを停止したが、その短時間の間に財布に入っていたカードも一部使用されたことが判明した。被害者は警察へ被害届の提出とともに捜査を依頼しているが、被害者は犯人の顔を覚えておらず、未だ犯人の特定には至っていない。

なお、この邦人被害者は、大使館からの安全情報メールで本事件のような事象が発生していることは認識していたが、まさか自分が被害に遭うことはない、という認識でいた。

(参加委員より補足説明)

○インドネシアで発行されたカードは、銀行による盗難補償が無い場合、悪用されても返金されない。リスクを分散するなど、対策が必要。

○カードの盗難補償については、カスタマーセンター連絡前の部分については補償されな

いため、注意が必要である。

ウ 2月1日にウスマ・ケイアイビルからミッド・プラザへ徒歩で向かっていたところ、歩道橋付近に複数人のインドネシア人が不自然に立っていた。

何か怪しいと思い足早に通り過ぎようとしたところ、何者かに背後から自分の足と肩を触られたため、驚いて振り向くと、インドネシア人男性が後ろからついてきていた。男の手を振り払ってその場を立ち去ったが、後で所持品を確認したところ、携帯電話がなくなっていたことに気がついた

エ 2月2日15時半頃。サリナデパート付近の交差点の西側歩道を歩行中、歩道橋付近に差し掛かったところで突然何者かに足を掴まれ、同時にズボンのポケットから携帯電話が盗られた。驚いて振り向くと後ろに2～3人のインドネシア人の男がいたため、携帯電話を返すように言ったが、男達は「知らない」と言いながら、近くに待機していたミニバスに乗って逃走した。

(2) 痴漢

1月末にオンラインタクシーで助手席に座った女性の体を運転手が触るという事件が発生した。

このタクシーはブルーバードなどタクシー会社所属ではなく、個人の車を使用してタクシー代わりにしているものである。安価ではあるが危険が伴うため注意が必要である。

(3) 交通事故

1月末にゴジェックに乗車した邦人留学生が、後方より当て逃げをされた。病院に搬送され、当初は捻挫と言われていたが、しばらくしても痛みが引かないため他の病院で診察すると、骨折していたことが判明した。

3 領事部からの報告

(1) 「インドネシアで安全に暮らすために」安全対策マニュアルの改訂について

本協議会のメンバーからも多数のコメントいただき感謝。それらを可能な限り反映し、マニュアルを完成させることが出来た。大使館と JJC のホームページやお知らせメールなどを活用して周知していく所存。

今回の改訂は、「はじめに」ならびに9ページの「住宅の選び方」において、2015年9月にジャカルタ市内のアパートで発生した、警備員による邦人殺害事件に触れている。被害者ご遺族からも、二度とこのような事件が起こらないようにとの強い意向もあり、これを反映させたものである。

外務省や大使館ではこの事件から2年が経過したことを受けて、人事異動の時期も踏ま

え、風化させぬよう再発防止に向けて注意喚起を行いたいと考えている。次回（3月）の本協議会では、「安全な住宅選び」を議題とし、意見交換を行いたい。

（2）アグン山の状況について

2月10日に警戒レベルが最高のレベル4からレベル3に引き下げられた。立ち入り禁止区域も火口から半径6kmから4kmと範囲が狭くなったが、まだ予断を許さない状況であるため、デンパサール総領事館などから提供される情報にご留意願いたい。

4 最近の医療事情など

近年、インドネシア国内で麻疹や風疹に感染した者が日本に入国することにより、これら感染症が日本に輸入される症例が増加している。資料にあるとおり、インドネシアへの赴任者・出張者へのワクチン接種は、従来のA型肝炎・B型肝炎・日本脳炎・腸チフスに加えて、20～40歳代の男女では麻疹・風疹ワクチンを、妊娠可能年齢女性は風疹抗体価測定もしくは風疹ワクチンを、バリ島やスラウェシ島などを訪問する方は狂犬病ワクチンを、それぞれ接種することをご検討願いたい。

5 質疑応答・各社からの報告

1) VOA問題

VOA購入時の問題が発生。1月16日24時着のフライトでインドネシアに入国。VOA自体の手続きに問題はなかったものの、35米ドルのVOAの購入にあたり100米ドルを渡したところ、753,000ルピアがお釣りと戻された。明らかにレートがおかしく、計算すると55ドル程度のお釣りしかもらえなかった。

⇒本件相談を受け、入管に確認したところ、本件は入管ではなくBRI銀行の管轄であることが判明。BRI銀行に問合せたところ、原則お釣りが発生した際にはルピアで返却するとの回答であった。その際、第2ターミナルにはレートの掲示があるが、第3ターミナルにはレートの掲示が無く、更にいずれのターミナルにおいても換算レート等を記した詳細なレシートは発行されない。

VOA購入に際しては、基本的に35米ドル丁度の米ドル現金を準備されることを推奨するとともに、100米ドル等で支払った際には、お釣りのルピア額をよく確認いただけるようお願いする。

2) 安全な住居選択について

安全な住居選択について次回意見交換するとのことだが、邦人はジャカルタ市内に住むだけでなく、東部地区に住んでいる方も多いため、情報をもらえるとありがたい。

3-1) 外務省等からの補助金によって、不審者が侵入してきた場合のパニックルーム6部屋を整備した。扉を鋼鉄製に変更したほか、飲料や軽食など非常食も整備している。

3-2) 爆破予告を想定した避難訓練を大使館と警備会社と連携して実施した。訓練後の反省から、危険発生等を知らせるホイッスルを購入・配布し、常に身に付けるよう改善した。

3-3) 中学部3階の転落防止用の手すりをかさ上げした。現状でも基準を満たした整備はされているが、安全性を高めるために、小学部棟他の3階部分の手すりを30cmかさ上げする予定にしている。

3-4) 3月13日に卒業式、3月16日には終業式・離任式を行う。

以上